

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100240		
法人名	医療法人長生会		
事業所名	ケアホームひょうたん島		
所在地	佐賀県佐賀市久保田町大字久富2852番地		
自己評価作成日	令和5年4月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和5年4月25日	外部評価確定日	令和5年5月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様の健康管理、疾病予防、発病時の対応については、関連医療機関との連携により万全を期しています。地域の行事に参加し、交流を深めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>周辺には田畑も多く、長閑な住宅地に建つ事業所である。法人母体が病院であるため医療面の充実には自負もある。長く続くコロナ禍のため職員会議での集合をなくした事は、日々のケア時に職員同士が意見を出し合う場面が同時進行することになった。徐々に方向が決まり集約されていく様子からはチームワークの良さが窺える。それぞれが持つ経験(ノウハウ)を互いに教え合う職場環境であることも離職者がいない所以であり、延いては利用者の表情(笑顔)にも表れている。更に、何にでも手を貸すのではなく、見守りの中で出来る事をやらせてもらうケアは、日々の積み重ねとなって残存能力維持へと繋がっている。5類移行となってもコロナ感染症が終息した訳ではなく、職員の奮闘は続くが、お互いさまだからと相手を思いやる声が聞かれた。</p>
--

自己評価および外部評価結果

【セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。】

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な会議で理念を繰り返し伝え、全職員が共有し実践できるようにしている。	理念は事業所独自のもので開設時から変更はない。事務所やリビング洗面台上の目につく場所に貼ることで意識付けも図っている。3つの項目があり、それぞれの下には具体的な行動が示され、ケアに迷う時には常に立ち戻るよう指導している。何にでも手を貸すのではなく、本人が出来る事を見極めながらと謳っている「自立支援」では、ADL(日常生活動作)を向上させ、延いてはQOL(生活の質)を高めることにも繋がるためケアの基本になっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の途中で挨拶をしたり、声かけを行っている。また回覧板などに記載されている町内の催事に参加したり、ボランティア慰問の受け入れも行っている。 昨年は、地域の班長を務めた。 地元のボランティアから、折り紙で作られたひな人形や羽子板を頂いた。	自治会に加入しており、地域の清掃活動等にも積極的に参加している。通常であれば地区催事での交流やボランティアの訪問もあるところだが、コロナ禍では殆どが自粛となっている。しかし会合などで介護に関する質問や相談を受けることもあり、専門知識を有する事業所として真摯に応えている。見守りや連絡を頼める関係も維持できており、コロナ感染症が終息する日を心待ちにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅で認知症の人の介護に取り組んでいる家族からの相談に応じて、認知症の人の理解を促して具体的な支援の方法を指導している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナウイルスのため開催できていないが、運営推進会議を定期的に関き、当施設の取り組んでいる内容について報告し、そこでの意見を実際のサービスに活かしている。	コロナ禍でもあった昨年度は、対面による会議は開催できず、代替案の各メンバーへの資料配布を以って開催とする対応にも至っていない。しかし、この会議が地域の理解と支援を得る機会になる事は承知しており、これまでこの場を通して地域との繋がりが深まりが少しずつ増えているとのことなので、今後へも期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人全体で連携を深めている。担当地区の地域包括支援センターとは密接に連携を取り、支援者の情報や受け入れ、研修会への参加、運営推進会議への参加など協力関係を築いている。	大きな法人であり、内部で解決できるだけのスキルや人材もあるが、行政側との関係も大切にしている。尋ねたいこと等があれば電話を掛けるなど協働関係は築けている。最近の件では、ターミナルケアに関する問い合わせを行い、実直に対応してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止にはグループ全体で取り組んでおり、職員はよく認識している。身体拘束はない。玄関も施錠していない。	入居契約時に指針の説明を行っている。研修は法人内外であり、職員は身体拘束の内容やその弊害まで理解している。現在その実施例はなく、玄関に施錠もない。利用者は、職員の目配りや所在確認の習慣等によって安全で自由な暮らしが支援されている。仮に不適切なケアが見られた場合、時を置かずまず本人に理由を尋ね、内容によっては全体の事として注意喚起することとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会を設けて、高齢者虐待防止関連法についての研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会を設けて、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時はもとより、家族には普段から希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。また、意見箱を設置し、意見を出しやすいよう配慮している。	コロナ禍では家族の面会も規制せざるを得ず、現在は窓越しで実施している。訪れた家族とは直に話せる機会であり、世間話等も交えながら何でも話してもらえよう努めている。また約半数のキーパーソンは遠方に住んでおり、電話での会話から想いや意見を汲み取っている。家族会はないが、家族も参加する行事が再開できた際には、自由に意見要望を出し合ってもらえる場を設けたいと考えている。今回の家族アンケートには、安心しているが、入所させて良かった等の声が寄せられているが、中には厳しい意見もあった。事業所では真摯に受け止め活かそうとしている。	前回の当外部評価の目標達成計画票に挙げていた「面会ができず様子がわからない」ことについて、定期的に家族に様子をお知らせするという課題が未達成のままである。率直な意見が出されたら前向きに活かそうとする姿勢もあることから、未だコロナ禍の厳しい環境ではあるが、サービス向上のきっかけと捉える対応に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を月に1回、必要がある場合はその都度開いている。職員の意見を活発に交換し、ケアに取り入れている。	現在、職員会議という集合ではなく、出勤時に気付きや意見を聞く時間を設けている。コロナ禍で始まった感染対策の一つでもある。全体に話したいケースがあれば各々が職場の中で話すことにより徐々に集約され、管理者がレジュメ等で最終的な周知を行っている。これまで以上に毎日が自由に自らの考えを発言する場となっている。利用者の嚙下状態において見た目との違いを感じた職員の意見から、とろみを付けた結果、食事がスムーズになった例もある。また管理者としては働きやすい職場となるよう配慮も必要で、職員が記す記録簿等の中に悩みを感じ取ればアドバイスをし、日頃からコミュニケーションを図ることも大切にしている。定時での帰宅や休暇希望にも出来るだけ応え、現場の声は法人上席に届けている。理事長が訪問診療で訪れることもあり接点は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績により、仕事を任せるとしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会はもとより、日常の業務の中で職員が学べるよう、指導できる職員を配置している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、機会を捉えて職員を研修会に出すなど交流の機会を作っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けたら、可能な限り、本人に一度ホームに来てもらっている。その際に、本人の要望などを聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けたら可能な限り、ホームに来てもらっている。その際に、本人の状態や家族の要望などを聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに、現在の状況をできるだけ詳しく聞き、別のサービスが必要だと思われる場合には、そのサービスを紹介している。必要に応じて具体的な施設を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のされていた仕事の話などを聞き、入居者様の得意分野のことを教えていただき、入居者1人ひとりが活躍する場面を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や行事への参加を声かけし、本人と家族の絆を大切に、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力してもらって、馴染みの場所や関係の継続に努めている。 家族等と電話で話すなどしている。	入居までの人間関係の把握には本人や家族、担当のケアマネジャーや病院のソーシャルワーカー等からも話を聞き情報を集めている。それらを基に具体的な支援が生まれ、通常であれば盆正月の帰宅(泊まり含む)や法事への出席などもあったが、コロナ禍では殆どが自粛となっている。そのような中でも電話の取次ぎはいつでも可能であり、また配偶者の葬儀に参列してもらうなど、感染対策に配慮しながら想いに寄り添い、関係が途切れることのない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者同士の交流を促すため、席順等に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、必要があれば支援を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の情報収集はもちろん、入居後も本人や家族の意向は機会のあるごとに聞いている。	利用者と接する時にはまず目線を合わせ、時には方言も交えながらゆっくりと話すようになっている。スキンシップや答えに選択肢を用意することも思いの把握には効果がある。発語の少ない方を笑顔でほぐす姿勢も窺える。入浴中など寛ぎの中で想いを話してくれる方や、お気に入りの職員を待つ方もあり、聞き取った事は口頭や申し送りノート等で共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集や、随時本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報収集や、随時本人の病歴や生活歴、ADL(日常生活動作)の状況を詳しく聞いている。 日々の生活の中でも観察を行い、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見を必ず聞き、意見や要望を計画書に反映している。	ケアプランは6か月毎の見直しとしているが、その間に変化があれば臨機応変な対応である。また入居して間もない時期は毎月から3か月毎へと延ばしながら様子をみている。本人の希望は日頃のケアの中で把握し、家族の要望等は面会時や電話の会話から汲み取っている。リハビリや現状維持を願う家族は多いが、歳を重ねる毎に身体機能の低下は否めない。しかし、事業所では何にでも手を貸すのではなく、見守りの姿勢が残存能力の維持にも繋がっている。日々の積み重ねが功を奏した例である。またモニタリングは毎月行い、ケアマネジャーや職員によって現状分析されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個人個人のケース記録を作成し、よく観察するなどして記録することを心がけている。細やかな記録を残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体調が悪化し、治療が必要な場合であっても、医療連携体制等により、治療を受けながら可能な限り入居を継続している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、運営推進会議に地域の自治会長や民生委員に参加してもらうなど、協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向に応じて、それまでのかかりつけ医の診療を継続している。	元々協力医の患者だった利用者にとっては病歴等も知ってもらえている安心感がある。入居後に説明を受け納得して協力医へ変更した方や、昔からの馴染みの医師の元へ通う方もあり、それぞれが希望するかかりつけ医となっている。週2回訪れる訪問看護は同法人事業所であり、母体が病院であるため医療面での充実には自負もある。なお受診に出向く場合の付き添いは基本的には家族対応である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をしている訪問看護の看護師と、随時情報交換をし、必要な指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態が安定した時点で、退院に向けた話し合いを行う。関連病院の場合は特に、入院時の情報提供や早期退院に向けた話し合いが容易であり、協力関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応の指針を作成し、入居時に確認をとっている。必要があれば、随時繰り返して説明し、変更があればすぐに対応している。	入居契約時に指針の説明を行っている。これまでに看取りの経験があり、エンゼルケアも希望があれば施している。一旦は決めていても揺れ動く家族の気持ちを踏まえ、話し合いは何度でも重ねる事とし医師の説明もある。話し合いにキーパーソン以外の家族が同席することも勧めている。殆どの職員は看取りを経験しており、会話の中でこれから起こり得る状況等を伝え寄り添っている。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の救急救命の研修は定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災避難訓練を行っている。訓練については、地震による火災、夜間を想定した訓練や消防署の指導の下での訓練も行っている。	年2回の訓練には消防署が立ち会うこともあり、昼間帯での実施である。夜間想定時には、夜勤者とみなした職員のみで初期対応を試みている。各利用者は当日の体調によって参加を判断し、避難を体験する方は隣接する駐車場まで移動している。職員は消火器や通報装置の使い方も承知しており、同法人の事業所へも自動送信され応援が駆け付ける手筈になっている。居室からの避難済はまず人数確認としているが、ドア付近で分かる合図も検討中である。各居室内で緊急時にドアを塞ぐような家具の配置はない。訓練での反省点や課題は全員がその場で聞け、速やかに改善された後にも周知している。	近年の自然災害は想像を超えることもある。ハザードマップでは浸水地域を僅かに逸れてはいるが、対策は続けて頂きたい。また緊急時に近隣住民の協力は不可欠であることを踏まえ、訓練への参加依頼も検討して頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は、「人生の大先輩である」ということを機会をとらえて繰り返し話し、尊厳を保つよう敬いの気持ちを忘れないようにしている。	入居して間もない時期は同性によるケアが必要かどうか、様子をみながら判断している。他事業所ではいつもの呼び名で接することにより緊張をほぐした例があり、本人や家族には何と呼んでほしいか尋ねることも検討している。日々のケアでは入浴やトイレの介助場面で羞恥心等への配慮が求められる。バスタオルの活用やドアを閉めるなど基本的なことはきちんと行っている。また個人情報の取り扱いに関して職員の意識は高く、業務上のやり取りであっても声の大きさには注意を払っている。居室の名前表示も同様に入居時に承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の入居者との会話の中で、選んでもらう場面を意識してつくり、意見を聞いている。担当職員を中心に個別に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や決まりを優先するのではなく、入居者の気持ちを優先にしたケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人ひとりに整容道具を用意しており、職員も個性を大切に服装をさりげなく支援している。出張理美容を希望する人、外部の理容室を利用する人など、希望に応じて援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好に応じて、メニューを変えている。利用者の状態に応じて、食事の準備や後片づけをしてもらっている。	法人の管理栄養士が献立を作り食材も届けられる。調理は事業所で行うため、リビング脇のキッチンからは音や匂いがして食事時を知らせている。家庭と同じである。利用者の好き嫌いやアレルギーの有無の把握もしており、苦手な食材や献立には代替えもある。栄養価は計っているが、週一回の体重測定も目安となっている。利用者の殆どは自分で食事が出来ているが、全介助を要する方もある。各々に応じた形状で提供され、出来るだけ自分で口へ運んでほしいとの思いから介助は最小限に止めている。誕生日はみんなに知らせ、おやつ等が少し特別になることもある。歳を重ねる毎に手伝える方は減っているが、おしぼりたみを自分の役割として丁寧に行う方もある。コロナ前には職員も一緒に食事が出来ていたが、状況をみながら再開を検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量は記録している。個人の嗜好に合わせて、メニューを変えることもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの自立度に合わせて、毎食後の歯磨きと口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄チェック表を作り、排泄パターンの把握をしている。おむつ使用者も日中はトイレに誘導している。	排泄に関して自立した方も若干名いるが、任せたままにせずさり気なく見守っている。利用者毎の排泄記録が効果をもたらした例では、誘導のタイミングを計ったケアにより尿意が自覚できるようになった方もある。入居後の大きな改善である。トイレ内は車椅子利用者でも十分な広さがあり、手すりや可動式ひじ掛けの設置は自立を促す補助具として役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日3時にティータイムを行い、水分補給をしている。入居者の状態に応じて、四肢の運動や散歩等も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせて援助している。入居者の要望によっては16時まで対応し、時間も本人のペースを尊重している。	入浴は週2回を目安とし午前中の対応である。風呂の準備は毎日できているため希望があればこの限りではない。嫌がる方には無理強いせず清拭等に対応するが、長く続けば職員のテクニックも活かし誘導している。浴室は広く、一人ずつゆっくりと入ってもらっている。寛いでいる中で想いを話してくれる方もある。ソープ類は事業所で準備するが個人で好みのもを持つ方もあり、それぞれに応じた介助である。ヒートショック対策では脱衣場側から暖気を送ったり、浴槽が大きく湯量が多いことで室温の維持にも役立っている。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝付きの悪い方には居間でお茶を飲んでもらったり、話し相手になったりして気持ちを落ち着かせ、ゆったりとした気分で眠れるように援助している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理はホームで行い、その都度職員が手渡し、服薬を確認している。薬の内容は、処方されるたびに記録し、内容を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の持てる能力や希望に応じ、洗濯物を干したり、畳んだり、食事の声かけなどの役割を持ってもらい、ご自分の仕事と認識していただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて、外出の支援をしている。散歩に出ることにより入居者の心の安心を図る場合もある。	コロナ禍の現在は外出規制も多い。現在の外出の支援としては、日常的な周辺への散歩であり、日差しを浴びるメリットや五感の刺激を理解しているからこそそのケアである。居室生活が続く方には、せめてリビングまではと移動し、床まである大きな窓越しに外を眺めてもらったり、利用者同士の交流も感じてもらっている。車椅子を利用する方も多く、散歩ではひとりずつ交替になるが、連れ出す効果はあると理解している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていないが、ホームの支払いがあるときは、入居者と一緒に支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方が手紙や電話を使いやすいように日常的に言葉掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの表示を手作りで作成し、居間には手書きのカレンダーを設置して季節感を感じられるよう、家庭的な雰囲気に配慮している。	南向きに窓のあるリビングは明るく広い。一角には少し高した畳コーナーもあるが、膝を曲げづらい利用者は椅子代わりに使う場所でもある。日中の殆どをリビングで過ごす方もあり、その動線上に行動を妨げる物はない。建物は口の字に各居室やトイレがある。中央は坪庭ではなく板張りのため、洗濯干しや日向ぼっこをしながらお茶も楽しめる場所として活用している。車の騒音はなく、日差しはロールカーテンで和らげている。手を触れる箇所の消毒はこまめに行い、時間を決めて換気も行っている。居室も同様である。浴室やトイレはきれいに掃除され嫌な臭気もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下を含む共用空間を広く取り、応接セットや食堂など、入居者が好きな場所を選べるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く取り、家具などの持ち込みは積極的に受け入れている。布団やベッドも持ち込みと貸し出しを選べるようにしている。入居者の写真など、馴染みの物を持ち込んでもらっている。	火気等の危険物以外に持ち込む品物に制限はしていない。使い慣れた物を持ってきていただくよう伝えている。寝具は殆どの利用者がレンタルを選び、リネン類の洗濯は業者に依頼している。各居室にクローゼットがあることで整理整頓がしやすく、室内はすっきりと片付いている。ボランティアからの絵手紙等を洗面台の棚に飾る方もある。天気の良い日には寝具を干す手間も惜しまない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は広く取り、家具などの持ち込みは積極的に受け入れている。布団やベッドも持ち込みと貸し出しを選べるようにしている。入居者の写真など、馴染みの物を持ち込んでもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない